



あかね

令和元年11月発行

独立行政法人国立病院機構
東近江総合医療センター
広報委員会

7月から当院は敷地内全面禁煙になりました。

緑内障について



眼科 中島 智子

はじめに

緑内障と聞いてみなさんはどのように感じますか？「失明する怖い病気」というイメージをお持ちの方が多くに思います。放置すると失明してしまうこともあります。最近では点眼薬や手術の発達によって失明しないで生涯を過ごせるようになってきました。そこで今回は緑内障についてお話ししたいと思います。

緑内障とはどんな病気？

緑内障とは、視神経が障害され、視野（見える範囲）が狭くなる病気です。なぜ視神経が障害されるのかまだ分かっておらず、一度狭くなってしまった視野をもとに戻すことはできません。そのために失明する怖い病気とみなさんが思っておられるのだと思います。

緑内障の検査はどんなことをするのか？

- ・ 視力検査
- ・ 眼圧検査
(目の表面に機械の先端をあてて測定する方法と目の表面に空気をあてて測定する方法があります)
- ・ 眼底検査
(視神経の状態を診察します)
- ・ 視野検査
(暗い部屋で一点を見つめたままで光がみえたらボタンを押して頂きます。見える範囲を検査します。)

これらの検査を定期的に行っていきます。



緑内障の治療はどうするのか？

視野をもとに戻すことはできませんが、眼圧を下げることによって視野が狭くなるスピードを遅らせることができ、生涯失明せずに過ごすことができます。

眼圧をさげる点眼薬（緑内障治療薬）にはさまざまな種類がありますので、その方に合った点眼薬を処方します。点眼薬でも眼圧が下がらず、視野の狭くなるスピードが遅らせることができなかった場合、眼圧を下げる手術（緑内障手術）を行います。

眼科からのお願い

緑内障は末期になるまで自覚症状がない病気です。また40歳以上の約5%が緑内障になります。1年に1回健康診断をうけ、早期発見できるようにしてください。

点眼加療を途中でやめてしまうと気が付かないうちに視野が狭くなっていることがありますので眼科の通院は続けてください。